

新年あけまして
おめでとうございます。

コロナ禍もなかなか収束せず、ロシアのウクライナ侵攻も止まらず、社会情勢も先が見えません。

卯年にあやかり飛躍の年にしたいという大それたことではなく、日常の生活の中に小さな幸せを見つけ、積み重ねていけるような日々を送りたいものです。

何かと忙しい現代社会の中、じつくりと毎日お経を上げることがなかなか難しい事です。

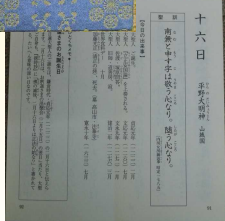
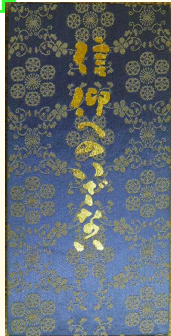
そこで宗門から出版された『信仰へのいざない』が仏壇にあると思います。

その中に『聖訓』が載っております。本宗では日蓮大聖人が著した書物やお手紙などを「御遺文」「御書」「御妙判」と呼んで、これらを信仰の拠り所として大切にしています。

一日一回お仏壇に向かい、その日の『聖訓』を声に出して読み、お題目を唱えることで小さな幸せ(功德)が頂けるのです。貴方の心に響くお言葉があるはずです。

『佛の出世は、専ら衆生を救わんがためなり。』と、大聖人のお言葉に有ります。声に出して続けてみましょう。

本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。



『お会式』は餅柱の花・新調される、十一月十三日、第七百四十一回目となる宗祖『お会式』が行われました。今年も餅柱に飾る桜の花が、二十数年ぶりに佛教婦人会の手により越中八尾の手漉き和紙で作直され、又、花を収納する木箱も奉納されました。佛教婦人会は、昭和三十一年に発足し、旧細入村の檀家のご婦人方が会員になっておられます。ことに、執行役員の皆様方には法要の時のお茶や食事の準備、接待、三日間もかかる餅柱の餅づくり、涅槃団づくり等に全て御出仕して頂いております。佛教婦人会の皆様のご協力なしでは当山の行事は成り立ちません。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。この度のお会式の桜の花作りもお忙しい中、何日もかけて作って頂きました。お陰様で御会式の餅柱が一層華やかになりました。心より感謝申し上げます。末永く大切に飾らせて頂きます。



孟蘭盆会

川施餓鬼塔婆供養

八月二十一日盆施餓鬼塔婆供養を厳修いたしました。本堂でのご供養のあと、御回向された新盆の精霊、ご先祖様の精霊の塔婆を、参詣者一人一人手にし、感謝の気持ちを込めて流しました。



除厄開運
お日待・節分会
一月二十二日(日)
十時より

令和5年度 厄年
男 25歳 平成11年生
42歳 昭和57年生
女 19歳 平成17年生
33歳 平成3年生
還暦 男・女
61歳 昭和38年生



～10月25日 三十番神祭～
三十番神堂での密を避け、本堂で行いました。
工夫しながら行事を続けています。